

探検の具体例②

地域探検では身近な店や施設について子どもたちが調べる中で、たくさんの発見があり、「もう一度行ってみたい。」「もっと詳しく調べたい。」という思いや願いが深まっていきます。それぞれが探検してきたことを振り返り全体で交流する中で、教師が適切に関わり豊かな気付きにつなげていくことが、次の体験を価値あるものにしていきます。

この学習サイクルを繰り返すことで、着実に子どもは力が付いていきます。



ここがポイント

事前の準備を入念にしましょう！

校外でのグループ活動になるので、事前に準備しておくことがたくさんあります。前年度までの実践があると、「今年もよろしくをお願いします。」で終わる打ち合せもありますが、場所の選定、見学先の都合の確認や事前交渉、安全の確保など事前の準備をしておかなければならないことは多々あります。保護者にボランティアで付き添いをお願いするときも、早めに依頼しておきます。



ここがポイント

くりかえし 関わりましょう！



視点をはっきりさせて、より深く対象に関わらせることは大事です。活動の後は、一人一人の学びを基に友達との関わりの中で気付きを共有し、みんなの発見につなげていきます。振り返りをする中で、教師が価値付けし、子どもたちをより深い学びに導きます。より深い思いや願い、視点をもったうえで次へとつなげることが、深い学びになります。



お寺の中を見学させてもらいました。
「となりの幼稚園に、ぼく行っていたよ。」
「わあ、このカネ、大きい！」



床屋さんが実際にやってくれました。
「ここでこうやって、あわをつくって……。」
「ぼく、まだ、ひげがないよ。」

Active

○単元の出会いの場の工夫～誰かに頼まれると盛り上がる

子どもたちと単元の出会いを工夫してみましょう。

子どもたちに「町探検に行って、町のことをあれこれ調べましょう」と投げ掛けるのも良いですが、「〇〇先生に1年生に教えるために町のことを教えてって頼まれたよ。」や「校長先生に調べてみてと頼まれたよ。」などの投げ掛けをすると、子どもたちの意欲が高まります。

気付き！

○友達からの褒め言葉を生かす（子ども同士の相互評価）

「もっと知りたいな。」「もっと、みんなに知らせたいな。」という気持ちを継続させるためには、教師の価値付けや友達からの肯定的な評価が不可欠です。でも、子どもが他の子を褒めるボキャブラリーをもっていないことも多いですね。「えーっ！すごい！」「びっくり！知らなかった！」「はじめて聞いた！」など子どもたちが気付いたことを肯定的に受け止める言葉を決め、マークやシールに表してみましょう。「えー！」「びっくり！」と友達の発見を褒めていく活動を広げていくことで、互いに高め合う仲間づくりや、より深い気付きにつながるはずです。